



# ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 39

～音楽と言葉は同じ起源から～

<http://hb8.seikyou.ne.jp/home/pianomed/>

筆者は内科医で、糖尿病や肥満など生活習慣病が専門である。また、音楽の領域では、ピアニストや音楽療法士としての仕事にも携わってきた。これらの中で、音や音楽によるコミュニケーションに加えて、言葉や対話による心のつながりがとても重要であることを感じてきている。

今回は、音や音楽、言葉や対話について考えてみた

## 音楽療法とは

音楽療法を平易に説明すると、私たちの生活にプラスになるように、音楽を上手に活用することとなるだろう。専門的な定義には触れないが、音楽療法には、広い意味と狭い意味がある。前者は音楽を楽しく使う音楽健康法であり、後者は治療という目的を有する音楽療法となる。

音楽療法セッションの一こまを図1に示す。参加者がリズムに乗って手を打つように、認定音楽療法士の吉岡明代氏と筆者とが指

導中だ。後方の図で、パンは一拍(♪)を、リングは三連音符を指している。

## 言葉を合わせる

セッションで大切なのは、音楽を心の奥深いところで感じさせること。人の記憶は、五感と結びついている。たとえば、情景やイメージ（視覚）、鳥のさえずりや音楽（聴覚）、自然の香りや食べ物の匂い（嗅覚）、料理や飲み物の味（味覚）、手で触れた感じ（触覚）などである。



図1

これらを蘇らせるためには、どうすればよいだろう。専門的な定義には触れないが、音楽療法には、「音」と「言」がある。実際には、両者間には歴史的に密接な関係がみられる。簡単な説明から始めよう。

図2に、両漢字の変遷を示した（出典は小学生対象の字典、石井勲博士による楽しい漢字教室）。

「言」とは、心に考えていることが口から声として出てくるものだ。声は音波で波動であり、波が重なるように出現してくる。意味は「言葉」であり、しゃべるという動作を表す。昔は



言葉を「こと」と呼んでいたため、「こと」は「言の葉」と表し、現在では「言葉」となった。

「音」とは、言の文字の下部「口」の中に「一」を書き加えたもの（図2）。音が出てくる口をみると舌が「一」のように見えるから

という。ユニークな解説でなかなか面白い。

## 音と声

引き続いだ、中学・高校生のレベルを想定しよう。音と声について、当初、音は「人の声」で、声は「楽器の音」を意味していたといふ。ところが、様々な状況で使われているうちに、両者が混同されてしまった。結局、「音」が楽器から発せられるもの、「声」が人から発せられる声と、クロスオーバーしたのだ。

